



会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) Kim Sang-chaе (Korea)

“Y's Men with the World” 「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長 (AP) 大野 勉 (神戸ポート)

“Make a difference beyond the 100th”

「100年を越えて変革しよう」

東日本区理事 (RD) 大久保 知宏 (宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるか」

” Think for the next generation ”

湘南・沖縄部部長 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「咲かそう 人の輪〜明るく・楽しく・元気よく〜」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「今こそ『すべての人を一つにしてください』(ヨハネ17章)を覚え、平和への行動を！」

“Now, keeping 『All be one with each other』 (John 17), Act for peace!”

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

田口 務

「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」

ローマ信徒への手紙 12章 12節

今月のひとこと

「この子どもたちが」

古賀 健一郎

『権力によって正義を脅かす』ことにより平和が損なわれている現実を心で痛めます。

多数派を掌握して絶対的な権力者となると、少数者の支配を合理化、正当化して独裁政治を強行しがちです。民主主義国においてさえも、多数派が少数派や個人の基本的な権利と自由を取り上げることがあってはなりません。

今こそ、謙虚に少数派・弱者の声に丁寧に耳を傾け、そこに示された思いを汲み取り、民主的に議論を積み重ねることで、そうした『対話』の中で、共通な認識ができ、合意ができることが強く求められています。

非合法で非人道的な手段の『武器』で、周囲を屈服させる卑劣な方法は言語道断であり、これまでの人類の歴史の大きな負の教訓となっていることは明白なことです。そして、そ

こには必ず、ただ逃げまどい、あるいは立ちすくんで何もできず犠牲となっている、女性や子どもや高齢者という弱者たちの姿があります。

ここで、横浜 YMCA にも深く関わりのある関田寛雄牧師のお話をします。関田先生は『男はつらいよ』シリーズの主人公・寅さんの大ファンで、「寅はいつも自由だが、自分勝手な自由ではない。自分をおっぼり出して、傷んでいる人、寂しい人、辛い人、重荷を背負っている人を見ると、すっ飛んで行って助けようとする自由です」『男はつらいよ』のテーマは悲しみと自由と愛の三つです」と言われます。

そんな関田先生の人権問題についての講演のお話の一部です。

『川崎戸手教会が無認可の保育園を有していた時のことで

田口ワイズ 今月の聖句について

コロナ過の3年目を迎えて、あらためてYMCAは地域社会での働きを通して、まず希望の光や恵みをわかち合い、苦難や困難に耐えながらも、徹底して人びとと寄り添い、祈って歩んできました。創立時、若者がまさに「暗闇の中」で見出したYMCAの力、それを今こそ思い起し原動力としたいとおもいます。イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方の根本となる「希望を示し、苦難を耐え、祈りつつ」前に進むことを繰り返し循環していくことは、「みつかる。つながる。よくなっていく。」、ポジティブネットのある社会の創造を示唆しているようにおもいます。ちなみに日本YMCA同盟の2022年度の基本聖句です。

<2022年5月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 10名	67 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<6月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
4-5	土		東日本区大会	Zoom
7	火	19:00	第94回Y-Ys協議会	Zoom
9	木	18:30	横浜クラブ第一例会	ハイブリッド
23	金	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
25	土	14:00	第3回部評議会	ハイブリッド

ある。18人の子どもたちがいて、その3分の1が、障がいのある子であった。クリスマスの件で、『クリスマス祝会』の日程を皆で話し合っただけで決めた。あいにく、ある障がいのある男の子が児童福祉センターに行っている間に、クリスマス祝会の日が決まっていた。次の日に日程を見て、「お母さん、楽しみにしていたクリスマス祝会に、僕、出られないよ」と泣きながら母親に訴えた。お母さんが園長先生に「何とかこの子がクリスマス祝会に出られるようお願いできませんか？」・・・。

そこで再び皆で話し合った。そうしたら、ある子から「みんなで、決めたんだよ！」という声が出てきた。けれども「〇〇君がいないクリスマスはつまらないよ」という声も出た。再度の話し合いの結果、17人(対)1人の『1人』の障がいのある子の為に、最終的に日程を変えた。つまり、17人(対)1人の数の中で『17人の声』が、『1人の声』の為に、新たに彼らの考えを変えた。

私は、クリスマス祝会の日、「これがクリスマスです！」と子どもたちに話をした。この世の中で、苦しんでいる少数派の方々の声を、多数派の方々がじっくり聴き続けることで、多数派の方々が新しく変えられていく。少数派が前向きに建設的に行動していくならば、良き道を神様は与えて下さるので、どんな困難なことにも、希望をもって歩みたい・・・。

幼き子どもたちが恐怖に泣き叫んでいる姿の厳しい現実を見るにつけ、『平和な社会を実現すること』を、私共、大人たち一人一人の必達目標として、無限の可能性を秘めた未来を生きようとする子どもたちを救うことに、最大限の努力を傾けたいものです。

最後に、上述した私の想いを端的に表現している下記の讃美歌を、8月の平和聖日で教会の聖歌隊の一員として賛美します。

『この子どもたちが』

1. この子どもたちが 未来を信じ、つらい世のなかも希望にみちて、生きるべきいのち 生きていくため、主よ、守りたまえ、平和を、平和を。
2. 戦い争い ここにかしこに 地をとどろかして燃えさかる時、子らは泣きさげぶ 血を流しつつ。主よ、とどめたまえ、いくさを、いくさを。
3. 『剣を鋤とし 槍を鎌とし、洪水のように 正義を流せ』。神のみ言葉は世界にひびく。主よ、教えたまえ、み旨(むね)を、み旨(むね)を。
4. この子どもたちの 未来を守り、生きるべくいのち、共に生かされ、平和をよろこぶ 世界を望む。主よ、祝したまえ、大地を、大地を。

<5月第一例会報告>

古賀 健一郎

日時 : 5月12日(木) 18:30~19:50

開催方法 : ハイブリッド例会(会場 横浜中央Y+Zoom)

出席者 : 青木、古田(横浜中央Y)、秋元、伊藤メン、メネ、大高、田口、古賀(Zoom)

(ゲスト) 平岡守(ビジター) 日下部美幸(鎌倉) 共に(ZOOM)

コロナの影響も鑑み、今回は『ハイブリッド例会』とした。例会は、古田ワイズの司会により定刻に開始。会長の開会点鐘、挨拶。ワイズソング、ワイズの信条の唱和。ゲスト、ビジター紹介の後、聖句朗読とお祈りがあった。

今例会の卓話は、YMCA 健康福祉専門学校校長 平岡守氏による『コロナ禍の横浜 YMCA 留学生事業』と題してのお話。平岡さんは『日本語スピーチコンテスト』の運営も含め、(海外からの)留学生に関わる全般の総括責任者としての役割も担っておられます。

以下は平岡さんのお話の抜粋です。

卓話『コロナ禍の横浜 YMCA 留学生事業』(平岡 守氏)

- ① 横浜 YMCA では、日本語学科は中央(横浜 YMCA 学院専門学校)・厚木(YMCA 健康福祉専門学校)・川崎(YMCA 国際ビジネス専門学校)の3校に設置されている。
- ② 2022年3月1日新規外国人の入国を再開。日本語学科3校で入国待機者90名。5月9日時点で59名(65%)が入国済み。
- ③ 入国待機者向けオンライン授業実施。2021年4月1日より任意参加でスタート、2021年10月期より 正規授業と



して継続。入国再開に伴い日本語学科入学希望者が増加傾向にある。

- ④ 一方で、これまでの留学生入国停止は財政の面などで厳しい学校運営となり、2018年開講の川崎校日本語学科において特に深刻であった為、川崎校日本語学科においての2022年4月期より募集停止とした。(2023年3月までの運営)。さらに、約2年間のコロナの影響は、国際情報ビジネス科、介護福祉科、観光ビジネス科などの専門課程留学生募集にも影響を与え、留学生の在籍数は激減した。
- ⑤ 今後の対策として、2023年4月期より日本語学科は、横浜・厚木の2校体制とし、運営体制の見直しを実施し、留学生主体の学科としながら、地域在住の外国人の支援にも取り組む。
川崎観光ビジネス科を募集停止とし、中央国際情報ビジネス科のコースへ移行、厚木介護福祉科では留学生受け入れを強化、さらにとつかスポーツ専門学校でも留学生受け入れを開始。
- ⑥ 日本語スピーチコンテストは今年9月2日(金)を予定。

(参加者との質問・感想の応答から)

★この10月期の入学希望者で、ミャンマーからの留学生が大変増えている。ミャンマーの場合、日本は、ウクライナのように、“避難者としての扱い”をしていないので、ミャンマーから出国を希望しても難しく、“留学で来る”が唯一の方法のようだ。

★地域在住外国人の支援について、神奈川県はボランティアの日本語教室は多くあり歴史もあり充実しているし、学習支援も手厚く行われていると認識している。

一方、横浜 YMCA の良さを生かすには、現状において、小・中・高の学校に通っている家族滞在の外国人の方が増えており、その子どもたちは日本でキャリアを形成していく必要がある。横浜 YMCA の専門学校では、日本語学科に加え、専門課程での学びを提供できると考える。これから日本の社会に出ていくであろう(外国にルーツがある)子どもたち、若者たちの学びに対応(学費の枠組みの検討を含め)していききたい。

★ポジティブネット募金(コロナ禍の影響を受ける横浜 YMCA 専門学校で学ぶ青少年支援緊急募金)も昨年度で終了したので、企業への支援を含めた新たな支援体制を模索中と伺い、それなら、「ワイズにも働きかけては？」の提案が会員からあった。

★留学生の増加傾向にある現状下、YCJ「Yokohama YMCA College Japanese school」の日本語学科に在籍している留学生をボランティアとして様々な形でサポートする「YCJ サポーター」(チューター活動を含めて)を広く求めている。

+++++
卓話の後はビジネス。今後の予定等を確認して定刻に終了。

「2022年度横浜YMCA会員総会報告」

古田 和彦

5月28日(土) 午後2時から4時30分、山手の聖光学院ラムネホールとオンライン併用で会員総会が行われた。

昨年は、オンラインのみの開催であったが、広いホールを

使い、間隔をあけてリアルで開催できた。但し、決議は昨年同様、6月4日まで書面により意思表示する。その回答者が定足数上の出席者、賛否の意思表示者となる。したがって、5月28日は厳密にいうと議案の説明の時であった。

定刻、総合司会の総会準備委員丸谷士都子さんから開始宣言。続いて、同じく総会準備委員の今城高之さん(横浜つばきクラブ) 司式により開会礼拝。

聖書は「恵みの業をもたらす種を蒔け 愛の実りを刈り入れよ。新しい土地を耕せ。」(ホセア書10章12節)が読まれた。

総会準備委員長岡戸良子さんから挨拶のあと、議事の審議となり、議長は常議員会議長の鈴木茂さん(横浜つばきクラブ)。冒頭、総会の成立、賛否の取り方について上記の説明があった。

議長の指名により、佐竹博総主事が、第1号議案「2021年度事業及び会計報告の承認」、第2号議案「2022年度全体事業方針・計画案及び予算案の承認」を提案・説明した。

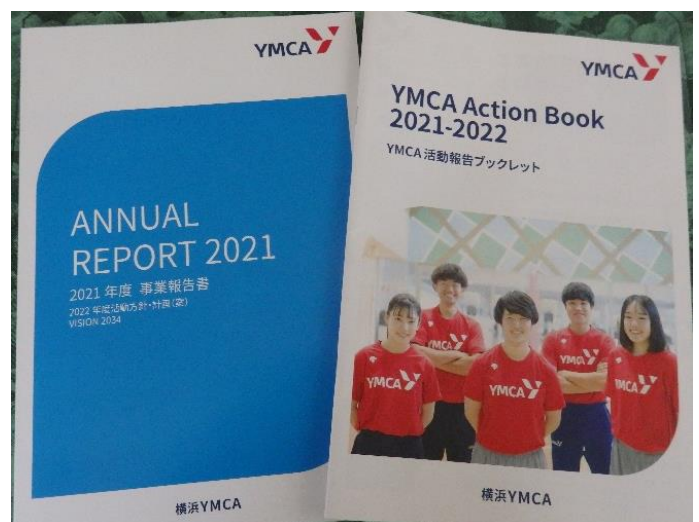
長引くコロナ禍の下、事業の縮小、留学生が来日できないなど、大変苦しい事業運営を余儀なくされているが、その中においても2021年度に横浜YMCAの創立150年(2034年)に向けて長期計画「VISION2034」を策定し、どのような社会を目指し、持続可能な組織となるための第1期中期3か年計画の第1年度としたこと、財政的には横浜YMCA全体で黒字決算に終わることができたこと、そこには、会員諸氏からの維持会費の増額等の支援と励ましがあつたことへの感謝の言葉があつた。

第3号議案「常議員の選出」が上程され、新任2名、改選(2期目)4名・留任2名の選任が行われた。

第4号議案「会員表彰」、44名のリーダーが奉仕賞を受けた。今回は会場で工藤理事長から直接表彰状を渡すことと、それぞれのYMCAで館長からリーダーに表彰状を渡すことが併用され、その様子はオンラインで流された。また、「奉仕の書」には岡戸良子さん、高倉茂美さん、佐藤千郎さんの3名が記され、会場で記念の盾を工藤理事長から授与され、受賞者の皆さんから感謝の言葉があつた。

工藤理事長の挨拶、閉会式、佐竹総主事の感謝の言葉で終了した。

横浜クラブ参加者は、会場：大高、古賀、齋藤、佐竹、田口、古田 オンライン参加者：伊藤メン・メネ



『近況』

押川 幸男



横浜ワイズの皆さま。お久しぶりです。昨年度から群馬県前橋市にあります共愛学園こども園園長(本務)としての働きを始めました。

学校法人共愛学園は、共愛学園こども園、共愛学園小学校、共愛学園学童クラブ、共愛学園中学・高等学校、共愛学園前橋国際大学短期大学部そして共愛学園前橋国際大学までの総合学園です。

今年度より、学校法人共愛学園の常任理事に就任しました。毎月の常任理事会では、こども園だけでなく小学校から大学までの様々な課題についての審議が行われています。

それと関連して、昨年度から、こども園の組織改革を始められています。260名の園児に対して60数名の教職員が生きがいを持って働く環境をどのように整えていくか、試行錯誤を重ねています。ここでヒントになったのがモンテッソーリ・メソッドでした。教師は子どもの背後から見守り支えていく存在なのだという理解です。現場の保育者を管理職が上から管理するのではなく、下から支えていく逆ピラミッド型の組織構造です。管理職は、現場の保育者に「仕える」「奉仕する」ことが期待されています。

イメージとしては、弟子の足を洗うイエスの有り様です。資生堂の故池田守男氏が組織改革で用いたサーバント・リーダーシップの考えでもあります。

今、危機的状況にある地方教会付属施設のマネジメントとしての実践研究が、キリスト教会において生き残りをかけたものになっている、と私は強く感じています。

最後に、新型コロナウイルス感染が収束し、また再び直接、横浜クラブ例会に参加し、皆さまにお会いできますことを楽しみにしています。

第二例会報告

伊藤 誠彦

日時：5月27日(木) 17:30~19:00 (Zoom 例会)

出席者：青木、伊藤、大高、古賀、古田

予定の時刻を30分遅れて開始。

1. 行事予定の確認

5月、6月の行事予定を確認

2. 協議・確認事項

6月例会の確認。6月例会は7月総会の準備に充てる。そのため、予め担当者に割り当てられた総会資料を作成の上、例会一週間前を目途に役員会構成員にメールで配布する。役員会構成員は事前にレビューして例会に臨み、意見を言う。

この他、古賀ワイズが作成された「横浜クラブ紹介」資料が披露され、その内容を協議したが、結論には至らなかった。

一言で横浜クラブ紹介と言っても、どのような対象者に対して何をアピールするのか、必ずしもこれまで体系だって議論をしてこなかったため、そのあたりの整理もしたうえで、今後も引き続き検討することにした。



担当主事 青木 英幸

5月17日(火)に横浜YMCA学院専門学校作業療法科在校生53名を対象としたセミナー(ホームルーム)授業に、横浜ワイズメンズクラブ古賀会長をお招きしご講演をいただきました。学生たちは2つの教室に分かれ対面とオンラインの同時進行で、横浜ワイズメンズクラブの活動目的や内容、古賀会長の自身の体験を通じての平和への想いを聴講しました。将来リハビリテーションのプロフェッショナルである作業療法士を目指す学生たちに対して熱いメッセージをいただき、本当にありがとうございました。

日本語学科では、4月から入学予定の留学生21名が授業参加に向け、随時日本への入国が開始されました。5月末日現在で16名の留学生が入国し授業に参加しています。昨年の10月からオンライン授業に参加していた学生たちも学校に登校し、今まではパソコンの画面越しでしか会っていなかったクラスメイトや教員と直接会うことが出来、思わず「やっと会えましたね」とリアルでの再会を喜んでいました。

また、日本語学科では現在、ウクライナから避難されて来られた方1名を6カ月間の聴講生として受け入れ、日本語習得のための支援を行っています。今後、横浜YMCA専門学校カレッジグループとして、YMCA健康福祉専門学校(厚木)、YMCA国際ビジネス専門学校(川崎)と協力し、オンライン授業等を活用して日本語の習得を支援していければと考えております。

6例会プログラム

日時：6月9日(木) 18:30~20:30

場所：Zoom 開催

司会：大高ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
3. 今月の聖句・・・田口ワイズ
4. ゲスト・ビジターの紹介・・・古賀会長
5. ビジネス・報告・・・古賀会長

(7月総会資料準備)

Happy Birthday

松島美一

例会報告：古田ワイズ

7月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ総会	Zoom
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
30	土	14:00	第1回部評議会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080